

第1章 山王廃寺

南橘市越前町山王地区で発見されたため、山王廃寺と呼ばれるようになりました。山王廃寺は、金堂・塔の基壇を中門と講堂をつなぐ回廊で囲む御影配置で、県内でも最古の寺院と推定されています。7世紀中頃に創建され、10世紀末前後まで続いていた寺院と推定されます。大正時代に塔心礎が見えられて寺院跡の存在が明らかになって以来、多くの遺物が発見され、地方としては傑出した内容をもった寺院跡として知られています。

山王廃寺の周辺地域は、古墳時代後期以来上野国^{カミノ}の中心といっても良い地域であり、越前古墳群や国府・国分寺といった重要な遺跡が集中しています。特に越前古墳群の宝塚山古墳^{タカラヤマコフノ}、肥前山古墳^{ヘノヤマコフノ}といった大型方墳は、時期的に山王廃寺の造営期と重なっており、その石造技術の類似も含めて、寺院建立武族の権威であると考えられています。

山王廃寺から出土している遺物は、石製磨崖^{カミツツ}や根等石^{ネナガシタ}などの石製品、寺域からは塑像の頭部や塑像片、銅鏡^{カネ}、縁起陶器^{エキキ}などが発見されています。また、瓦片も大量に出土しており、創建期の建物の屋根を飾った素弁^{スヘ}・重蓮華文軒瓦^{オウギ}と素文あるいは重蓮華文軒平瓦^{ヘイバ}の組合せがあります。さらに出土した瓦の中に「放光寺」「方光」と書かれたものがあり、山王廃寺が高峰市山王跡^{カミタカ}（現）、〔上野国文替其録帳〕^{カミタカ}（1030）に見える「放光寺」であることが確実になりました。

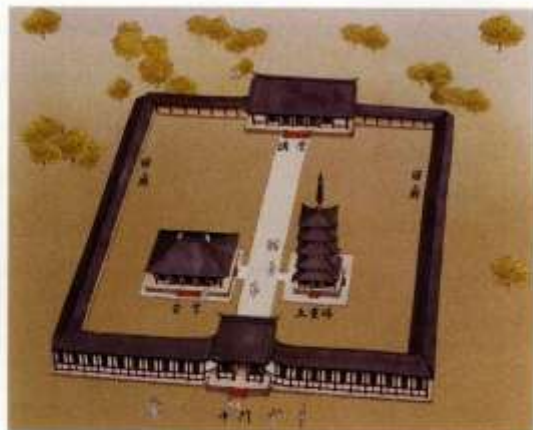


図1 山王廃寺跡地平面図（解説：図書の本文より転載 国府・国分寺考古学館）

第1章 山王廃寺

南橘市越前町山王地区で発見されたため、山王廃寺と呼ばれるようになりました。山王廃寺は、金堂・塔の基壇を中門と講堂をつなぐ回廊で囲む御影配置で、県内でも最古の寺院と推定されています。7世紀中頃に創建され、10世紀末前後まで続いていた寺院と推定されます。大正時代に塔心礎が見えられて寺院跡の存在が明らかになって以来、多くの遺物が発見され、地方としては傑出した内容をもった寺院跡として知られています。

山王廃寺の周辺地域は、古墳時代後期以来上野国^{カミノ}の中心といっても良い地域であり、越前古墳群や国府・国分寺といった重要な遺跡が集中しています。特に越前古墳群の宝塚山古墳^{タカラヤマコフノ}、肥前山古墳^{ヘノヤマコフノ}といった大型方墳は、時期的に山王廃寺の造営期と重なっており、その石造技術の類似も含めて、寺院建立武族の権威であると考えられています。

山王廃寺から出土している遺物は、石製磨崖^{カミツツ}や根等石^{ネナガシタ}などの石製品、寺域からは塑像の頭部や塑像片、銅鏡^{カネ}、縁起陶器^{エキキ}などが発見されています。また、瓦片も大量に出土しており、創建期の建物の屋根を飾った素弁^{スヘ}・重蓮華文軒瓦^{オウギ}と素文あるいは重蓮華文軒平瓦^{ヘイバ}の組合せがあります。さらに出土した瓦の中に「放光寺」「方光」と書かれたものがあり、山王廃寺が高峰市山王跡^{カミタカ}（現）、〔上野国文替其録帳〕^{カミタカ}（1030）に見える「放光寺」であることが確実になりました。



図1 山王廃寺跡地平面図（解説：図書の本文より転載 国府・国分寺考古学館）

■ 山王廃寺出土の塑像

塑像とは、土を主要な材料とした仏像であり、彫刻として焼きません。塑像の技術は仏教美術とともにガンダーラから中央アジア・朝鮮半島を経て日本に伝わってきました。山王廃寺塑像群の製作技術はきわめて高く、8世紀前半の同時期に奈良の寺院で製作されたものと比較しても何ら変わりません。地方の仏師によるものではなく、中央から派遣された仏師により製作されたものと考えられています。

この女性像3体は、身長として30 cmから25 cm、髪型や耳の形から袈裟の伏巻者と推定されます。地髪部や髪際^{カミ}の形が、奈良法隆寺^{ホリウツ}基本塑像^{キホンゾゾウ}の女性侍者像や奈良唐川^{カラカハ}原寺^{ハラノ}基山道跡^{ミチノ}出土の女性頭部と共通しています。



塑像 女性像（奈良法隆寺、奈良唐川原寺、奈良唐川原寺）



塑像 女性像（奈良法隆寺、奈良唐川原寺、奈良唐川原寺）

■ 山王廃寺出土の塑像

塑像とは、土を主要な材料とした仏像であり、彫刻として焼きません。塑像の技術は仏教美術とともにガンダーラから中央アジア・朝鮮半島を経て日本に伝わってきました。山王廃寺塑像群の製作技術はきわめて高く、8世紀前半の同時期に奈良の寺院で製作されたものと比較しても何ら変わりません。地方の仏師によるものではなく、中央から派遣された仏師により製作されたものと考えられています。

この女性像3体は、身長として30 cmから25 cm、髪型や耳の形から袈裟の伏巻者と推定されます。地髪部や髪際^{カミ}の形が、奈良法隆寺^{ホリウツ}基本塑像^{キホンゾゾウ}の女性侍者像や奈良唐川^{カラカハ}原寺^{ハラノ}基山道跡^{ミチノ}出土の女性頭部と共通しています。



塑像 女性像（奈良法隆寺、奈良唐川原寺、奈良唐川原寺）



塑像 女性像（奈良法隆寺、奈良唐川原寺、奈良唐川原寺）